



## ■第27回聖路加看護学会学術大会 大会会長挨拶



第27回聖路加看護学会学術大会は2022年9月にオンラインで開催します。メインテーマは「オーダーメイド医療と看護」です。現在、遺伝子と病気の関係、遺伝子と薬剤の効果などの様々な研究成果が臨床現場に応用される取り組みが始まっています。オーダーメイド医療とは、遺伝要因等による個人ごとの違いを考慮した予防・診断・治療の実現を目指しています。これまでも看護は、個人ごとの違い「個別性」を重視してきました。今回の学術大会では、オーダーメイド医療と看護について、参加者の皆様と共に考える機会としたいと思います。

教育講演では、遺伝医療の広がりと深まりについて生殖補助医療の立場から久具宏司先生（東京都立墨東病院）に、特別講演では、生存学について立岩真也先生（立命館大学）にご講演いただきます。シンポジウムでは、「看護における『個別性』の探求」をテーマに高度実践看護師にお集まりいただき、議論します。また、特別企画「チャプレンとはなそう!」では佐々木道人先生（聖公会神学院）をお招きします。卒業生・修了生の皆様の中には、佐々木先生のお名前に懐かしさを覚える方もたくさんいらっしゃるのではないのでしょうか。ミニ講座では「遺伝/ゲノム医療について基礎的な内容を看護の言葉で学ぶ5つの講座」を、事例検討会では「こんなときどうする?妊婦さんに出生前検査について聞かれたら」として、事例をもとに出生前検査について悩む妊婦さんを支えるための援助を考えます。出生前検査や周産期医療・看護を初めて学ぶ方（学生）、これから取り組みたい方も、どなたでも参加しやすいようにグループワーク前にミニレクチャーを準備しています（事前申込制、定員20名）。一般演題（口演/ポスターセッション）では、ぜひ多くの知見をご発表いただければと思います。オンラインではありますが、参加者の皆様との交流や活発な意見交換ができる場とすべく、事務局一同鋭意準備を進めております。多数の皆様のご参加を心よりお待ちしております。

（第27回聖路加看護学会学術大会長 有森直子  
新潟大学大学院保健学研究科 母性看護・助産学・遺伝看護学）



## 第27回 聖路加看護学会学術大会

日本海より佐渡島を望む

オンデマンド配信：9月18日～10月25日（予定）

会場：オンデマンド配信（一部ライブ配信）

<https://www.slnr27.net/> 演題登録期間：募集中～2022年6月17日（金）

## ■実践科学研究助成基金 2022年度「研究助成」採択結果

「看護実践科学研究の推進を目指し、看護実践の向上と看護学の発展に寄与すること」を目的とした「一般社団法人聖路加看護学会看護実践科学研究助成基金制度」による2022年度助成対象研究の募集を行いました。複数の方からご応募をいただきありがとうございました。選考委員会の審査を経て、以下の方が採択されましたのでご報告いたします。研究のご発展を心より祈念いたします。

### 一般社団法人聖路加看護学会実践科学研究助成基金 2022年度「研究助成」採択者

代表者名：水谷真由美（三重大学大学院医学系研究科 准教授）

研究課題名：空間疫学を援用した特定健康診査の高受診率地域クラスターの検出とその地域特性

（担当：吉田俊子）

## ■学術交流集会「遠隔コミュニケーションの特徴と対話の工夫」開催報告

2022年2月5日（土）にZoomを活用したオンライン学術交流集会を行いました。

最初に、平泉拓先生（宮城大学看護学群准教授）からミニレクチャーをいただきました。まず、遠隔心理支援に関する基本的な知識や遠隔コミュニケーション特有の難しさを感じる要因（技術的な問題が生じやすい・知覚情報が限定的で、ラポール形成の形成が緩やか・心身の疲労が蓄積しやすい）に関する説明の後、遠隔コミュニケーションにおけるスキル・日常での留意点について、レクチャーしていただきました。



その後、ブレイクアウトセッションでグループトークを行い、その内容を共有するため、グループファシリテーターが全体発表しました。遠隔コミュニケーションでの難しさとして、「画面オフのままだと、相手の反応が見えず不安になる」「家族との遠隔面会では、家族が否定的な思いを抱いたときの対応が難しく、タッチングもできない」「雑談ができない」「相手の思いを察する・表情を観察することが難しい」といった意見が挙げられた一方、遠隔ならではのメリットとして「マスクを外して交流できるので、相手の表情が見えやすい」「共有画面が見やすい」といった意見も挙がりました。

さらに「相手が何を考えているのか、遠隔だとわかりにくいと感じていたが、実は対面でも同じなのだ気づいた。相手に確認していくことが必要だと感じた」といった新たな気づきを得る機会にもなっていました。また、遠隔ならではの緊張感を和らげる方法として、「セッションの最初に“今日の気分は?”と問いかけ、チャットに入れてもらう」「30分おきに音楽を流す」といった日ごろの実践内容を共有することができました。

交流集会後のアンケート結果からは、「遠方の方とも交流がもてて、大変有意義だった」「今まさに聴きたいテーマで、大変学びになった」「気軽に参加できるのがよかった。また、グループに色々な立場の人がいて、フラットに話し合えるのも楽しかった」「Zoomでお互い顔が見えてアットホームな感じがよい」「グループワークも似たような属性の皆様で共通の課題も多く、共有できて大変嬉しかった」「グループワークの時間を設けて頂き、自施設以外、他分野の方の実践の内容など知ることができた」とグループトークへの満足度も高いことがうかがわれました。

今回の交流会では、首都圏だけではなく、東北地方や関西圏からも併せて24名の参加がありました。中には、遠隔だからこそ出席できた方もおり、貴重な交流の機会になりました。これからも遠隔コミュニケーションを上手に活用し、全国の多くの皆様と積極的に対話ができる機会を作っていければと感じています。ご参加くださった皆様、平泉拓先生、ありがとうございました。

(聖路加看護学会学術交流委員会 大熊恵子)



オンライン学術交流会の様子

## ■会員メッセージ

新企画として今季の号から、「会員メッセージ」コーナーを設けました。ここでは、学会員の皆さんに、学会での思い出や期待など、自由にメッセージを寄せていただくコーナーにしたいと思っています。(ぜひ、立候補もお待ちしております。)

### ●三浦友理子(みうらゆりこ)さん(聖路加国際大学・学会編集委員会)

聖路加看護学会のハーモニー

第20回学術大会を振り返ると、はじめに思い出されるのはポスターに載った柔らかな色合いの音符です。大会のテーマは「教育と実践のハーモニー」でした。運営会議の中で大会長である松谷美和子先生がテーマ名を提案すると、ある委員が「先生っぽくて、いい!」とおっしゃいました。私も全く同じ意見でした。

昨年からは編集委員の任を仰せつかりました。不慣れで役割を十分に果たせていませんが、他の先生方が査読をマネジメントする姿には、筆者と査読者、筆者と読者、筆者と学術の調和を図ろうとすることにご尽力があります。

今後とも、聖路加看護学会が異なるものをつなぎ調和を図る柔軟な学会であるよう、与えられた場で努力をしていきたいと思っています。



第20回学術大会実行委員のみなさん

### ●津田泰伸(つだやすのぶ)さん(聖路加国際大学大学院博士後期課程)

聖マリアンナ医科大学病院 急性・重症患者看護専門看護師)

修士課程時代に聖路加看護学会の存在を知ってから10年。昨年度、ようやく入会させていただきました。どことなく聖路加に関連する研究者・教育者だけに限定されるクローズドな学会イメージがありましたが、実はそんなことはなく、実践家を含む幅広い看護職が看護実践を支える貴重な知を公表し続けてくださっています。専門看護師として日々臨床に立つ私に多くの刺激と有用な情報を与えてくれています。そして、何より本学会から発信される論文の質の高さや先見性、一貫する本質の探究。博士後期課程で研究者としてのトレーニングを積む中で、改めてそれらに気づき入会を決めました。



津田泰伸さん

ありがたいことに、「院内迅速対応システム:RRS(Rapid Response System)が起動された患者の退院時までの身体状況・看護必要度の特性把握」という研究課題を2021年度看護実践科学助成基金研究として採択いただきました。2022年度からRRSの施設導入に診療報酬がつくようになりましたが、看護の視点に立った研究成果は十分に蓄積されていません。RRSが起動された患者さんの状態や体験に迫り、その知見を社会に還元させることができるよう学会を通して成長していきたいと思っています。

## ■学会誌編集委員会からのお知らせ

2022年度より、学会誌の完全電子化が開始となりました。会員の皆様は、聖路加国際大学リポジトリあるいはメディカルオンラインで、学会誌を無料閲覧、ダウンロードが可能です。メディカルオンラインについては、毎年度IDとパスワードが更新となっておりますので、先日お送りした2022年度版にてログインしてください。

学会誌の発行は年4回(4月、7月、10月、1月)を予定しております。論文投稿は随時受け付けておりますので、是非みなさまの貴重な研究成果をご発表ください。委員一同お待ちしております。

(担当:有森直子)

## ■庶務からのお知らせ ~ご連絡先の変更をお知らせください~

新年度を迎える時期、ご所属、住所、メールアドレスなどが変更になる方がいらっしゃると思います。大変お忙しい中恐縮なのですが、その際は、学会事務局までご連絡ください。会員の皆様には引き続きのご理解とご協力をお願いいたします。

尚、ご所属などの変更は、下記のリニューアルしたホームページの「変更届フォーム」からも、手続きが可能です。ぜひご活用ください。

(担当:大久保暢子、森田誠子、西垣佳織)



The screenshot shows the 'Change Form' (変更届フォーム) on the SLNR website. The page header includes the SLNR logo and navigation links. The main content area has a blue background with the title '変更届フォーム'. Below the title, there is a section for contact information: '事務局 FAX: 03 (5565) 1626' and '住所: 104-0044 東京都中央区明石町10-1 聖路加国際大学内'. The '会員情報' (Member Information) section contains two input fields: '会員番号' (Member ID) and '氏名' (Name), both marked as '必須' (Required). A note below the fields states: '※変更内容の入力欄は会員情報入力欄の下にあります。' (Note: The input fields for change content are below the member information input fields.)

ホームページの「変更届フォーム」: <https://slnr.or.jp/change/>



## ■会計からのお知らせ

4月より2022年会計年度となりました。会員の皆様には年会費振り込み票をお届けしております。年会費納入がまだお済みでない方は振込をお願いいたします。

2021年度の会費納入率は76.5%と、昨年度に引き続き向上していますが、未納の方がまだまだ多い現状です。

学会の活動は皆様の会費により成り立ちます。学術大会、学会誌のオンライン化、HPの刷新、研究助成金や学術研修会、高度実践看護の研修会など会員の皆様にご参加いただける事業のみならず、学術団体として社会的にも様々な役割を果たしております。

是非学会活動にご参加くださいますとともに、今後とも引き続き会費納入への皆様のご協力をお願いいたします。

=====

振込先：郵便振替口座

口座番号：00100-8-670371

加入者名：一般社団法人聖路加看護学会

=====

(担当：平林優子、小林真朝)

## ■編集後記

コロナ禍で過ごすのも3年目になりました。少しずつ規制が緩和されていますが、マスクはまだ外しにくい日常です。オンラインでのやりとりはここ数年でとても活発になりましたが、その一方で、直接人と会って、その場を共有しながら話をする心地よさを、改めて感じるゴールデンウィークを過ごしました。

今後もオンラインの良さを活かしながら、人と人が直接会って話をするとなんか生まれるのか、そんなことを考えながら過ごしたいと思っています。



(担当：瀬戸山陽子、佐居由美、大橋久美子、竹森志穂、松尾尚美)

ニュースレター発行や様々な情報をメーリングリストでお伝えします。

メールアドレスが変更された場合は、学会事務局 [slnr@slcn.ac.jp](mailto:slnr@slcn.ac.jp) までご連絡ください

一般社団法人 聖路加看護学会ニュースレター No.57

- ▶ 発行：2022年5月31日
- ▶ 編集：広報委員会（瀬戸山陽子 佐居由美 大橋久美子 竹森志穂 松尾尚美）
- ▶ 連絡先：〒104-0044 東京都中央区明石町10-1 聖路加国際大学内

[学会ホームページ] <https://slnr.or.jp/>